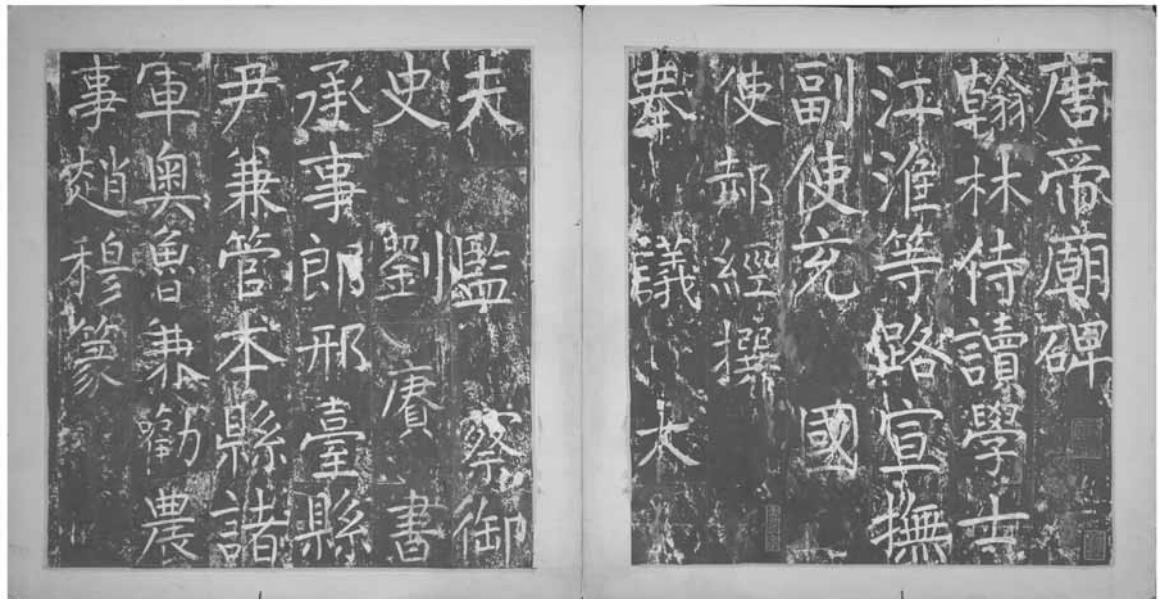


主圖版・唐帝廟碑（部分・原寸大）

唐
有
水
山
千
古
故
其
縣
田
地
元
始
之
元
也
土
封
唐
有
水
山
千
古
故
其
縣
田
地
元
始
之
元
也
土
封



図①「唐帝廟碑・巻頭見開き」

「落ち穂拾い記」
〔68〕
『唐帝廟碑』



図②「残石2片拓本」

北京に1年間滞在したときは、古書店などを週末に定期的に回り、遊んでいる内に、いろんな方と簡単な挨拶を交わす様になつた。前回の高貞碑も、馴染みになつた古書店の責任者から頂いたものであつた。今回紹介する碑帖も古玩品を売る個人商店の主人から、何かをお手伝いしてあげたことで、頂いた。今まで見たこともなく、書名も知らない拓であつた。縦横43センチの正方形に仕立てられた大きな剪装拓の折帖である(図①)。顔真卿風の伸びやかな楷書であり、巻頭に「唐帝廟碑」とあり、続いて「翰林侍讀學士・郝經撰」さらに「奉議大夫・劉賡書」とあり、巻末に「大元大德元年歲次丁酉・建」とある。碑名が「唐帝廟碑」であり、撰文は郝經、書者は、劉賡、元時代の大德元年(1297年)に制作された碑であると認識した。これまで手にしてきた金石資料をあれこれ調べるも掲載されているものは無かつた。後に、ネット検索で、この碑は、河北省の隆尧県の堯山の頂に建てられていたが、1967年爆破され、現在は碑の残石が二石ほど保存されているとして、残石拓本が、二張り示されていた(図②)。家蔵拓本と比較すると、本文中に同じ部分の文字を見ることが出来た。この碑は、ほとんど知られる事が無く、拓本が伝来するものは、極わずかであるらしい。碑の撰文をした郝經(1223~1275)は、宋末から元初にかけての歴史上の有名な政治家であり、碑文を書いた劉賡(1248~1328)も当時の記録が残る政治家である。

「唐帝廟碑」は、古代の聖土・堯の偉大な功績を記す。碑の文は、記録に残されているが、碑の全体の整拓本は、知られていない。碑額には、篆書で「唐帝廟碑」と記録に残されている。本文は、顔真卿の楷書の「顏氏家廟碑」を稍細身にした、穏やかな書風である。文字の大きさもほぼ同じである。

伊藤滋(書齋名・木鶏室)

書のひろば

理事長 下谷洋子

第76回毎日書道展開催



中原志軒先生によるギャラリートーク

第76回毎日書道展が開幕しました。

今回は旧北陸展が東京展に移管されたため、国立新美術館と東京都美術館に展示となり、そのことであって、国際高校生選抜書展(書の甲子園)の入賞作品が国立新美術館に展示となりました。

入賞審査は6月末、会員賞は7月2日、文部科学大臣賞は3日に決定しました。

・文部科学大臣賞

山中翠谷氏(大字書部)

- ・会員賞(本院関係)
高原梨秀(前衛書部)

開幕式は7月9日逢坂恵理子国立新美術館長、松木健毎日書道会専務理事に、今回実行委員長の下谷が加わりテープカットを行いました。

東京展

新企画(従来の会員賞受賞者による席上揮毫、毎日賞入賞作品の解説会その他、次の企画が新しい加わりました)

・記者会見

7月8日(火) 国立新美術館の前期陳列の主要役員室の陳列がほぼ終了した午後3時、新企画のメディアへの記者会見が行われました。

集った15社を前に、76回展の実行委員長、審査部長、総務部長、陳列部長に毎日書道会専務理事が立ち会い、今回展の概要及び書道振興の取り組みなどを説明し、質疑応答を行いました。

記者会見は本院でも行っている行事ですが、毎日東京展では初めてのため、関心が深く、シビアな質問も飛びかいました。

・ギャラリートーク
飛びかいました。
今回東京展でのもう一つの注目された企画は、毎週開催された書道会理事・監事によるギャラリートーク

で、主に会員賞の作品や、理事・監事の展示を中心に行われ、作品の見どころや各部間の特徴など丁寧に解説され、ギャラリーとの触れ合いが楽しく繰り広げられました。毎日展示ではの和気藹々の雰囲気でした。これまで行事のなかった東京都美術館においても開かれました。

・拓本をとってみよう

実際に拓本を採ってみて、普段剪(きず)んで学書している人達に見識を深めてもらおうという主旨。

書道芸術院出品者懇親会

その後、会場を芝パークホテルに移し本院の今回展出品者の懇親会が和やかに開かれました。出席者は140名ほどで、毎年のことですが、本院の自由な気風の中、公募の出品者と役員が一体となって歓談する様子は、温かいものがあります。

今年は、会員賞が前衛書部の高原梨秀さんのみでしたので、少々寂しかったですが、来年に、また、期待しましょう。



素雪先生授賞式

表彰式

7月20日(日)午後1時よりザ・プリンスタワー東京「コンベンションホール」にて、盛大な表彰式が開催されました。今回は受賞者約90人、

来賓、役員約300人という出席者でし



本院の懇親会

た。

式に先立ち、今回毎日書道顕彰を受けられた坂本素雪先生の顕彰授与が行われ、主催者挨拶から閉会の辞まで、約1時間40分の表彰式は滞りなく終了しました。

漢字書基礎基本講座(15)

種谷萬城

傅山『草書五言律詩軸 江皋口「仲春」』
(東京国立博物館蔵)

連綿行草書 傅山

中国明末清初の傅山(1607～1684)は、同時代の王鐸(1592～1652)とともに、連綿を多用した行草書の長条幅に名品を遺した。傅山は、山西省太原の人。代々学者の家柄に生まれ、幼少から才能に恵まれた。38歳で明王朝が滅亡すると、明の遺民として清王朝に反意を表し、抗清復明の信念を貫いた愛國主義者で、思想家。そして、博学多芸な学者、詩人、書画家、医学家でもあった。書は、



傅山『草書五言律詩軸(部分)』
難字過』(東京国立博物館蔵)
傅山臨書『讀書難字過』

傅山『草書五言律詩軸(部分)』
難字過』(東京国立博物館蔵)
傅山臨書『讀書難字過』



傅山篆書作品



傅山倣書『縦横無尽』

傅山『草書五言律詩軸(部分)』
難字過』(東京国立博物館蔵)
傅山臨書『讀書難字過』

傅山『草書五言律詩軸(部分)』
難字過』(東京国立博物館蔵)
傅山臨書『讀書難字過』

※ユーチュープ『筆のサロン』に臨書
と倣書の関連動画を配
信しました。是非参考
にして下さい。QRコード
でアクセスできます。



筆のサロン
QRコード

篆刻・刻字基礎基本講座(15)

後藤大峰

刻字作品を創る上で、次に最も重要な用具は、所謂、木材を彫り上げるのに必要なもの、刃物です。

刻字で一番必要とする刃物は、大きく分けて木彫用の「彫刻刀」、木彫用の「鑿」ではないでしょうか。

文字の微細な部分では、細かな作業が必要ですので小振りな彫刻刀を、文字以外の余白部分等を削り取る際はノミで大胆に削り取る、という具合に、その場所などによって必要とする刃物を使い分けます。

次に、彫刻刀、ノミとも、刃の形状によって様々あります。まず、彫刻刀には、大まかに分けて、「平刀」「丸刀」「三角刀」、いわゆる切り出し刀などがあり、ノミについても「平ノミ」「丸ノミ」「先丸ノミ」等、特殊な物として、「箱ノミ」等、数種類あります。使用する場所、場所によって様々で、作者の好みによって選んで作品創りをします。

画像は何種類かの彫刻刀、ノミです。ご自身に合った刃物を選択し作品創りをなさって下さい。



次回は彩色につ
いての絵の具、
塗料等について
述べたいと存じ
ます。

書道芸術院

令和の群像 (2025)



岡
村
恵
窓
(大阪)

継続は力なり

小学3年生の夏、友達に誘われ近所の書道教室に通い始めました。正座を一生懸命に書いた文字を褒めてもらえると嬉しく、級が上がると励みになり書道が好きになって行きました。小学校の卒業文集の将来の夢は書道の先生になることでした。そして、今から約45年前、知人の紹介で石田春窓先生

の額でした。吸い込まれるように見入ったことを鮮明に覚えています。そして今、その言葉の重みを感じています。当初は競書の課題を通して石田先生は基礎から丁寧にご指導くださいました。そして、37年前先生が大きな筆を持ち大きな紙の上を全身で軽やかに書かれる姿に驚きました。その飛沫の迫力と墨の滲みの美しさが今も脳裏に

焼きついています。そして私は毎日書道展の初出品作「梅」に挑戦しました。思うように筆も体も動かず悪戦苦闘の繰り返しが、その豪快な手法が楽しくて大字書の魅力に惹かれて行きました。まず法帖から素材選びをするのですが、当初は街中で見るあらゆる文字が目に留まり、手のひらに指で文字を書いたり、素材選びで頭の中がいっぱいだつたりしたことを思い出します。

私は時々、大字書を書く前に栄養ドリンク等を飲んで書いたりします。元気パワーで力強く書けるようにと一種の自己暗示でしょうか。文字の造形と自分のリズムが合った偶然性から面白い書作ができたりした時などは、とても楽しく夢中になります。しかし、ほとんどが失敗の積み重ねです。人生山あり谷ありですが、これまで歩んでもらえたのも故・恩地春洋先生、小林琴水先生、石田春窓先生にご教授いただき、多くの皆様のお力添えのお陰と感謝の念でいっぱいです。

これからも日習い、そして臨書を基本に文字のイメージをどう表現するか、線質や墨色、滲み、墨と紙との相性など私にとって学習の課題は山積みです。これからも「継続は力なり」の信念で日々努力してまいりたいと思います。いつも反省の繰り返しですが、いつの日か人の心に残るそんな作品を書いてみたいものです。

掲載の作品は、第42回安芸全国書展に出品した作品「川」です。



第42回安芸全国書展「川」

岡村
恵窓
書

書道芸術院 令和の群像 (2025)

「軌跡」



木村香翠（鳥取）

母は特に、線質と流麗な運筆を重視していました。私の作品は大胆さに乏しく面白味がない作品となってしまう傾向がありました。現在は芸術院展の添削会（山陰支局）で、名越先生をはじめ周りの先生方に御指導戴きながら制作をしており、せん」と貼り紙をしていたため、私は穴を開けて見ていました。書写の提出作品を書いている時に、筆をしっかりと書いていた筆をポンと取られたりもしました。大人になってからの作品添削の時も、よく親子、師弟関係でもあり、時には感情的には親子、師弟関係でもあります。朱もなりました。小さい頃母は、仕事と介護に忙しく、私は話をしたいのに、母は家事を済ませると一階で書作にとりかかり、机には「ここから先には入っては、いけま

い」と筆をポンと取られたりもしました。大人になってからの作品添削の時も、よく入れてもらはず、母曰く「100枚で書けない場合は「ハア」とため息だけ。朱も立ちはだかり、鑑賞して下さるような、そんな作品を目指して研鑽していきたいと思

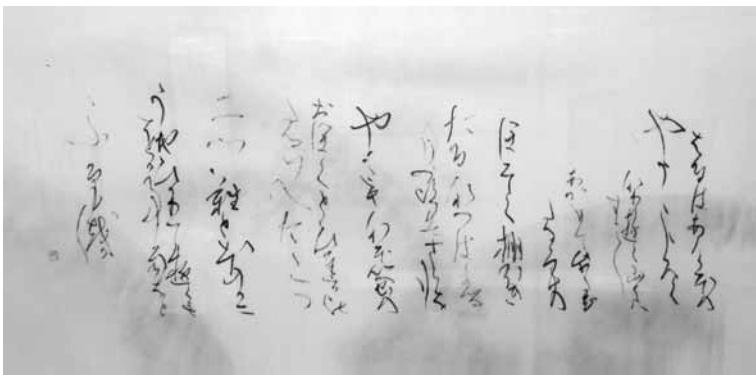
うに立体感と躍動感を表現できるかにあります。またそのことは詩の選び方によっても随分違うと思います。切羽詰まらないと動けない性格の私ですが、いつの日か人が立ち止まり、鑑賞して下さるような、そんな作品を目指して研鑽していきたいと思

い」ということです。「それからは、言い訳はしませんでした。



書道芸術院

令和の群像 (2025)



第2回蘭書道会書展 「清少納言 枕草子より」

中川 紅 蘭 書

「かなに魅せられて」



中川 紅 蘭 (福島)

私は59歳の時に書の世界に入りました。それまでの人生は製薬会社の研究所での薬品の合成分析、総合薬事研究所での薬名検索辞典出版の編集委員、病院や保険調剤薬局等、薬剤師として一筋に働き続けてまいりました。その年、病気で最愛の妹を亡くし、心にぽっかりと穴が開いたような日々を過ごしておりました。そんな私を見かねた母が、「書道とダンスをやってみたらどうか」と勧めてくれたのが、この道に入るきっかけでした。小学生から中学生まで、福島大学の教授でいらした藤本竹亭先生にお習いしたことはありましたが、それ以降は書道とは全く無縁に生きてまいりました。最初は、墨をする時間が心を落ち着かせるということだけの理由で机に向かっていたように思います。けれどもかな文字の流れの中に、言葉では表せない感情の機微や余情が宿ることを感じ、次第に書が私の生活に欠かせない存在となっていました。幸いなことに母がお習いしていた加藤紅樹先生は、かなを東北にという心意気で私達に指導して下さり、東京から高橋松延先生をお招きして、何度もか鍛成会を行って下さいました。お二人のご指導が、私のかな書道に大きな影響

を与えて下さったことはまちがいありません。その後、「蘭書道会」として独立し、生徒さんの要望もあり、東日本大震災で甚大な被害にあわれた飯館村の道の駅で復興を願っての第1回の蘭書道会書展を開催致しました。10日間の長丁場でしたが、毎日足を運んで下さり、とても感動された方もいらして、ここで開催したことに大きな意義があったのかもしれないと幸せな気持になりました。蘭書道会として独立した私は、下谷洋子先生に直属でないながら、熱意のこもった丁寧な御指導をいたづいております。「真のかな書道の指導者とはこうあるべきのか」と納得し、自分にはとてつもなく遠い道程であることを実感する今日この頃です。

東北にかなをという願いを抱いて、第2回蘭書道会書展を令和6年5月に「コラッセふくしま」で開催致しました。かなの魅力を伝えたいという思いで、百人一首を主に、若い人にも楽しんでいたゞけるようカラフルな作品作りを中心に行いました。タイムリーにも大河ドラマで「光る君へ」が放映されていてかなへの興味を持たれた方が多かったことは、喜ばしいことでした。私の住まいには小さなギャラリーが併設されていますが、今後はこの空間を活かし、地域の方々に広く書の魅力をお伝えできれば、これ以上の幸せはありません。

6

令和7年度 新審査会員作品

II

山崎 琳佳（現）・甲谷 凰梨（現）・田中 岳舟（漢）

「大井雅人の句」

甲谷 凰梨
(岡山)

「航海日誌」



山崎 琳佳
(宮城)



甲谷 凰梨
(岡山)

審査会員にご推挙頂き有難うございます。小竹石靈先生、会の皆様のお導きあってのこ

とと深く感謝しております。 捩んでは消え撋んでは消えを繰り返す書道の日々ですが、感動する心の大切さが少し分かってきたような気がします。

いつも前向きにポジティブな気持ちで丁寧に書に取り組み続けたいと思います。（鳳梨）



この度は審査会員にご推挙いただき、誠にありがとうございます。いつも温かく熱心にご指導くださる武山櫻子先生、以呂波書の会にてご指導くださる坂本素雪先生、書友の皆様のお陰と心より感謝申しあげます。今後も書くことの楽しさ、ありがたさを胸に、精進して参りたいと思います。
(琳佳)

田中 岳舟
(福岡)

「生生」



田中 岳舟
(福岡)

世の中が日々混沌として何かを信じる力が薄れしていく中、コツコツと積み重ねてきたことが何かのかたちとなって現れるることは、自身にとって非常に尊いことだと感じています。

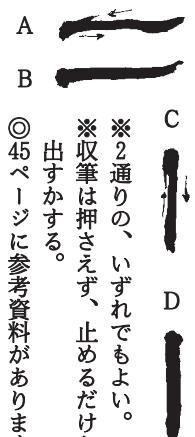
常に前衛の精神を持ちながら、引き続き書の可能性を探求していくたいと思います。（岳舟）



驕ることなく、作家として常に前衛の精神を持ちながら、引き続き書の可能性を探求していくたいと思います。（岳舟）

張遷碑（後漢・186年）②

〈解説〉この碑について上田桑鳩は「健康で素朴な氣分がし、落ち着いた雰実な氣分もする。（中略）線は穂先を表さず、平凡で直線的であるが、線の中には、逆筆で突き込む方法（下記A・C）と筆を立てて垂直に走る方法（B・D）を紹介している。（編集部）



※2通りの、いずれでもよい。
※收筆は押さえず、止めるだけか、はじき出すかする。

◎45ページに参考資料があります。



※掲載図版80%に縮小（原寸にするには125%で拡大して下さい）

惟中平三年歲／在攝提二月震／節紀日上旬陽

行立てについては変更しています。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

漢字研究部臨書課題（半紙普通判・縦使用）上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題（A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可）
(B. 小品の部—半切以上半切以内・全紙1/2以内も可 (A・B縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

かな研究部臨書課題
特別研究部臨書課題

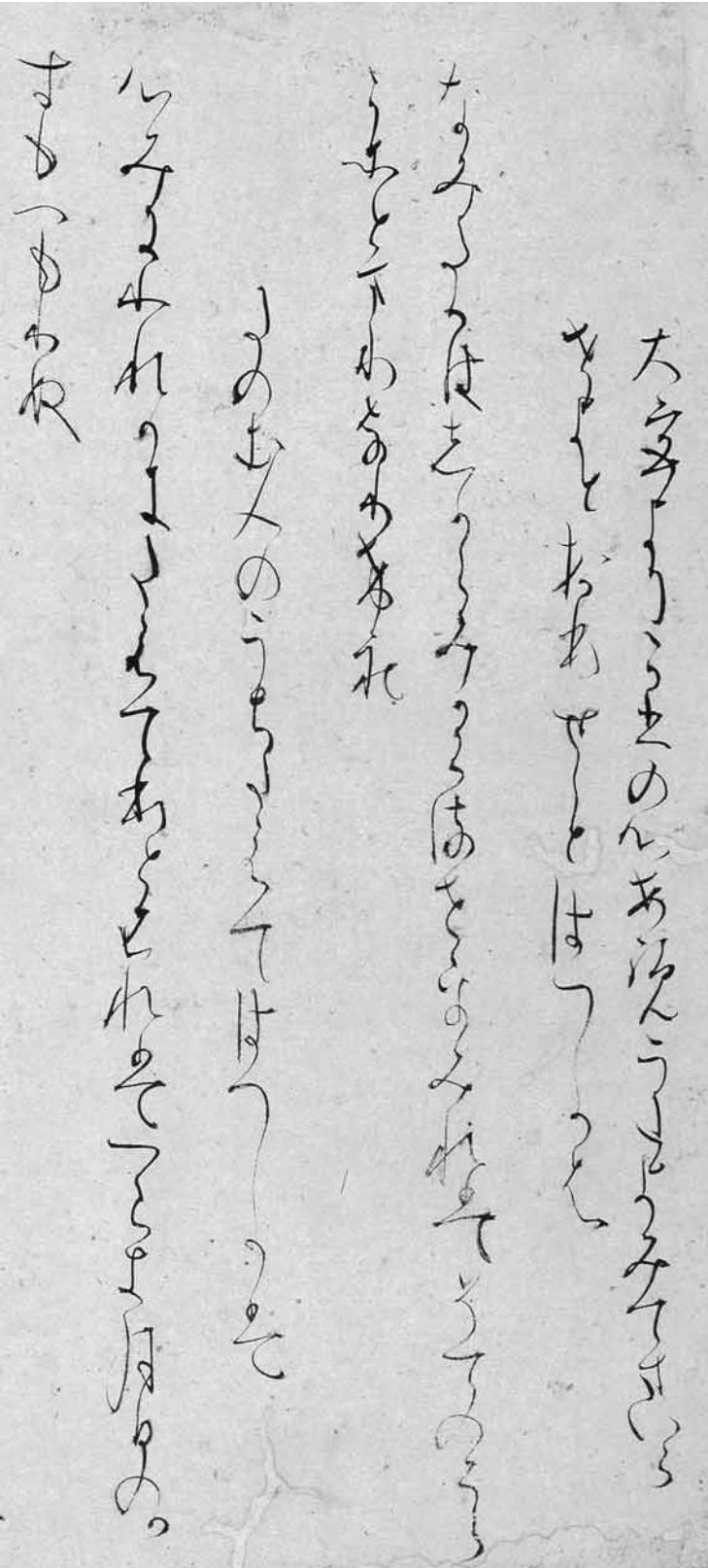
(半紙普通判)(料紙可)・縦長に使用(別紙を裁断して貼付も可。
半便紙は半紙サイズに切って使用のこと。左記の古筆の掲載部
分より歌一首以上を書く。(全幅も可)
B. 小品の部=毎日展審会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
A. 大作の部=半切以上、半切以内(縦横自由)
いずれも左記の掲載以外も可。)

〈解説〉『子の僧の集』の部分について、高木聖鶴氏は次のように指摘している(表現をわかりやすく改変したり省略したりしたところがある)。

- ①この部分は平常心で書いたところ。自己を飾らないときの書風と言える。
- ②運筆は自然で巧妙なうえ円熟の妙を示す。それでいて爽やかで清らかな線が展開されてゆく。
- ③連綿の美しさは、自然なむだのない続け方から生まれている。

- ④行の流れの交響は淡々とした自然の状態で表出され、見れども飽かぬ風情がある。縦にまっすぐ書かれているような部分でも、右に左にかすかな搖らぎを求めて楽しんで書いている。
- ⑤適切な墨量を駆使し消え入るまでに渴筆の妙を出しているところがある。
- ⑥紙面の下部に多くの余白を持たせて爽快感を求め、上部の余白との響き合いを表出する。

(編集部)



※掲載図版原寸

よみ 大宮ようごひの心あ覽うたよみてまいら/せよとおほせごとはべしかば/なみだがはしがらみかくるせをみればそでのうら/こそとまりなりけれ/たのむ人のうちたえてはべしかば/心みにわれかきたえてほどふればづらき月日のか/ずもつもりぬ

小竹石雲

夏潭蔭修竹
(武帝)

武帝

夏の頃の底知れぬ渕は、生い茂る高く長い竹に覆われている。

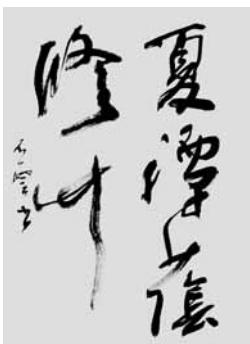
動き、流れの自在性を求めて、

宋代の行草よりも一層個性の豊かな表現を明清に求めてみた。極端なまでの文字の大小の変化と文字の重心移動で、動き・流れのある作品を狙った。表現オーバーになると格調が下がるので気をつけたい。2行目は1行目とのバランスを考慮しながら大胆に展開させた。参考例は細線の切れ味を主にまとめた。

参考

夏潭蔭修竹

書体=自由



夏潭蔭修竹 よみ (夏潭蔭修竹) (かたんしゆうとうおお)

眞實一路
(四字熟語)

うそ偽りなく、ひたすら真心で
尽くし通すこと。

誠実な生き方の形容。「眞實」
は、率直で誠実なこと。「一路」
は、ひとすじの道のこと、「ひ
たすら」「まっすぐ」の意。眞実
な生き方の形容。

昨今、様々な情報が溢れ、残念
ながら眞實のわかりにくいうことが
ある。眞實を見極め、純粹に真っ
直ぐ歩きたいとの思いで撰文した。
石をごつごつと刻むように書く
六朝時代の高貞碑や造像記などの
筆法「方筆」を参考に、横画・縦
画の起筆・收筆ともにはつきりし、
鋭い起筆と歯切れよい線質で書い
てみた。いかり肩の転折は角張り、
力のこもった波法にも特徴がある。



書体＝楷書

眞實一路　よみ
(眞實一路)

習い方解説 (2)

下谷洋子

水澄んで遠くのものの声を待つ
(谷野予志)

よみ方

よみ方 水(二)澄(春)んで遠(筆本)(久)のもの(能)の(へ)声を(越)待(万)つ

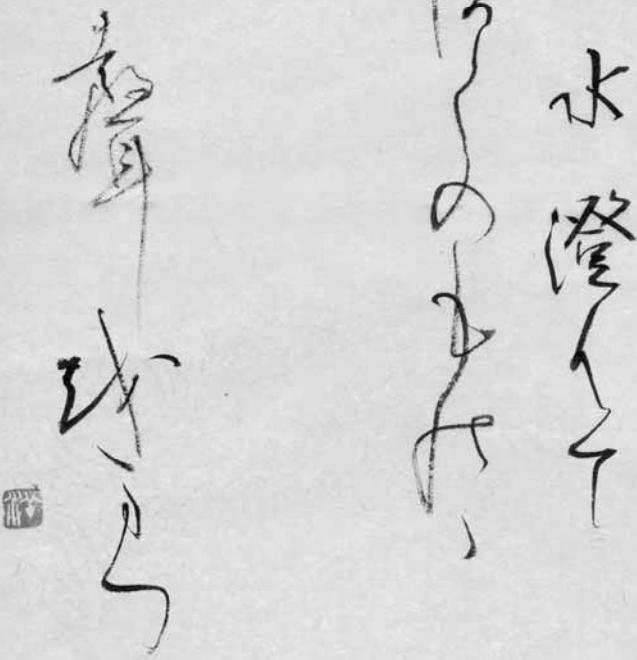
澄んで透明になつた水は、音にも
敏感になる。
季語は水澄む(秋)、予志の句は
一物仕立(季語の「一物」だけを
詠んで作る)に特徴がある。

句と出会って最初に感じたインスピレーションから、表現を弄り過ぎ
ずに書きたいと思いました。漢字も

かなもオーソドックスな基本形にして、背筋の伸びた凛とした響きを出
しました。長い連綿も似合わないの
で避けました。文字を書く以上、基
調となる古典や古筆は、句の大まか
なイメージを壊さないものにと心掛け
ています。墨縫は越です。

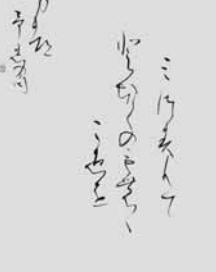
参考は反対に変体がなで動きを楽
しみました。

〈参考〉



よみ方 水澄んで遠(とほ)く(久)のもの(能)の(へ)声を(越)待(万)つ

創作



*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半纏紙は上記のサイズに切って下さい。

よみ方 水(二)澄(春)んで遠(筆本)(久)のもの(能)の(へ)声を(越)待(万)つ
(越)の(へ)声(こゑ)を待(ま)つ
予志の句

かな規定 秀級以下【9月15日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写眞の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)

よみはととくもとく

よみはととくもとく

よみ方 よのかはとてもかくてもおなじ
ことみやもわらや(も)はてしなければ

歌意 世の中は、どちらにしても同じこと。豪華な宮殿から粗末なわら小屋まで、上には上が、下には下がある。人の欲には限りがないので、ほどほどで満足するのがよいのでしょう。

かな条幅規定【9月15日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

見越雪枝選書

習い方解説 (2)

見 越 雪 枝

かみさやかな月
神路山月さやかなる誓ひありて
天の下をば照らすなりけり

(西行)

かみさやかな月
神路山月さやかなる誓ひありて
天の下をば照らすなりけり

よみ方 神路山月さ(佐)やか(可)な(奈)る誓(運可)ひ(悲)あ(阿)り(利)て
天(安免)の下(し多)をば(八)照らす(春)な(奈)りけ(介)り(里)

*タテ形式に限る

創作

天照大神は人々を救うため、神路山の光清かな月として現れようと誓願なさい。この月は格別に天下を照らしているのだ、の意。書き出しはあまり大きくならないように心がけています。左右に動かず縦に伸びる字形を気にかけ書きました。墨継ぎは照です。

漢字条幅規定 初段以上【9月15日締めきり】用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

習い方解説 (2)

名 越 蒼 竹



書体=自由

文字の形を不安定にするには活字の反対を試みることです。
①線を水平・垂直に書かない
②偏と旁の上と下を揃えない
③冠と脚の幅を揃えない
④点画(線)の太さを変える
などです。上の字の不安定さをどう受けて書いたらよいかは、天才を除けば古典や現代名家の書からきちんと学ぶのが一番です。

*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下【9月15日締めきり】用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書

習い方解説 (2)

種 谷 萬 城



水善利萬物
(老子)
(水は善く万物を利す)

書体=自由

老子に「最上の善は水のようないます。水は万物に利益を与え、どんな器に入れられてもその形に従い争わない。また人の嫌がる低い位置に落ち看く。だから道に近い。」とあります。今月は重厚で魅力的な顔真卿の楷書の倣書です。向勢の字形や独特的の筆法は、本誌連載中の「漢字書基礎基本講座(8)」と関連動画をご覧下さい。

中の中の「漢字書基礎基本講座(8)」と

習い方解説 (2)

鈴木英晴

頂上は静かだった。ソヨとの風
もなかつた。北岳の大きな三角の
影が、大樟沢を距てた向う側の
山に次第に這い上ってきた。

深田久弥「日本百名山」より 美晴書

個人が選んだものとはいって、「日本百名山」といえば深田久弥のものを指すようになりました。品格・歴史・個性などの基準を設けて選び、登山者の間でも百座を目指して登り続ける人は少なくないようです。今回の課題は本邦第2位の高峰、北岳の項から選びました。7月には特産種のキタダケソウをはじめとする花々が咲き乱れる美しい山で、バットレスといわれる険しい岩壁がクライマーを魅了し槌音が響きます。今回は連綿のない行書を基本としました。文字の中心を考え、点画や文字の間は気脈が続くように気を付けました。漢字とかなの大きさも調和するよう、また、行の天地の空きにも配慮しました。

頂上は静かだった。ソヨとの風
もなかつた。北岳の大きな三角の
影が、大樟沢を距てた向う側の
山に次第に這い上ってきた。
深田久弥「日本百名山」より ○○書

書体=自由

△用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
△黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

〔〕注意!!
用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

季節の言葉・七十二候より

立秋第三候 寒蝉鳴く

处暑第二候 天地始めて蕭し

白露第二候 玄鳥帰る

秋分第一候 雷初めて声を收む

千葉蒼玄

季節の言葉・七十二候より／立秋第三候 寒蝉鳴く／处暑第二候

白露第二候

玄鳥帰る／秋分第一候

雷

初めて声を收む／氏名

天地始めて蕭し／
天地始めて蕭し／

書体＝自由

(掲載手本85%に縮小)

◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を

◇ 用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可

◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る

今月のホープ作品。各部総評

NO.770

ペン字部 師範 加瀬明日夏

布置が巧み。楷書の結構が丁寧で、字形が美しい。明快な線に存在感あり。楷書の模範作です。

◎ペン字部総評 行書作品が大半。自然な運筆で伸びやかな作品が多く見られた。さらに漢字とかなの調和を心がけましょう。(紅瑠評)

かな部 師範 篠田恵美子

大和言葉には、季節や時間にまつわる言葉がたくさんあります。日本は四季が際立っています。日本人は季節や時間の移り変わりを大切にしてきました。明日夏書(国)

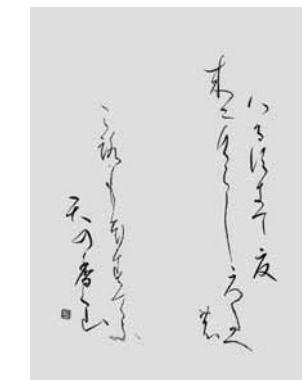
漢字部 師範 安藤 楊風
漢簡の書法に習熟した作品。起筆の処理が巧みで、藏峰による線に深味があり、生き生きしている。

◎漢字部総評 上級は隸書作品が多く見られ、漢碑、漢簡を基に創意溢れる作が目についた。着実な学書の成果を感じた。(萬城評)

漢字条幅部 師範 舟寶 恵美

柔軟な筆捌きから生まれた字形、線条の温もりが心地よい。紙面の納め方も手慣れて余白が美しい。

◎漢字条幅部総評 行草作品では行の流れに工夫が見られた。落款との兼ねあいで作品の表情も変わるので落款も大切に。(石雲評)



前衛書部 特選 神田加奈子

上下の淡墨が細線の動きを限定、虫かごのホタルの光跡を想う。夏の詩情を追求し表現した作品。

◎前衛書部総評 全体的に質の向

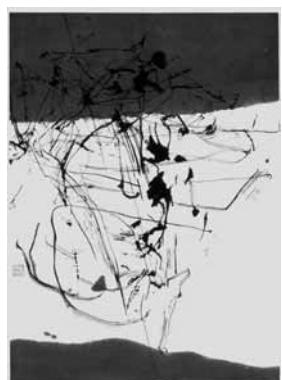
上がなされていて、楽しく創作されていく様を感じました。(寶音評)



かな条幅部 師範 根本 雅子

軽快なりズムと太細の巧みな線質によって、立体感でインパクトのある作品となつた。

◎かな条幅部総評 漢字の「木」「茶」が大きすぎてバランスが悪い作品が散見。全体の調和と流れを心がけましょう。(孝予評)



現代詩文書部 特選 坪江 彩苑

多彩な線質による躍动感は雄大な世界へと飛び出す。重厚さと織細さで織り成す美の表現見事。

◎現代詩文書部総評 作品の表現は自由だが、技術力と内面性、感性の両輪が必要である。(惠鳳評)

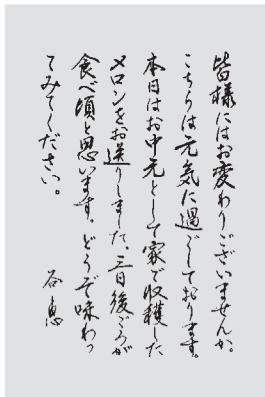


実用書優秀作品

選評 後藤大峰

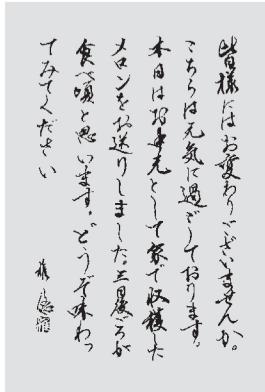
◎実用書部総評
特選 本郷谷恵
筆先の開閉による線質の良さは大変素晴らしい。行間も的確です。
（大峰評）
実用書は漢字と、かな等の組み合わせが大切で、それを文の流れとともに書くことです。墨と筆の力も借り、自身の気持ちを表出しよう。

特選 本郷谷恵
筆先の開閉による線質の良さは大変素晴らしい。行間も的確です。



今月の注目作
千田白香

特選 阿部雅悠
各字、変化に富み、起收筆の処理も見事です。流れに無理がない。



蒼書麗春もく	陽游澤阪汀佳	華立精秀	樹玉州秀惠
華仙か平無山	常盤やま	和田福	千原鴻もく
葛渡辺作	高橋千	池崎	阿部澤本郷
柳井稻村	水津浮須	椿山島夕	泰瑛春美
千利高橋	白鳥須須	若葉文月	雅悠恵
柳瀬千	菊地	椿翠安	智恵春
千利高橋	水津	田中三浦	泰瑛春
柳瀬千	白鳥	中原皆川	雅悠恵
千利高橋	須須	島中節子	泰瑛春
柳瀬千	須須	島中節子	泰瑛春
正た大書千梓一深こ文	文蘭こ	島中節子	泰瑛春
華か雲泉葉江新大だ	文筆老州美汀無	島中節子	泰瑛春
柴猿佐佐權小久北菊川加片角張梅池田飯塚	美津柳瀬千	島中節子	泰瑛春
田渡藤代林下爪池崎藤柳瀬千	澤美井澤	島中節子	泰瑛春
洋簞和泰子泰子香華	珠晴芳都子	島中節子	泰瑛春
洋簞和泰子泰子香華	勝江美津子	島中節子	泰瑛春
楓宗上八常五粹澄譽成也	耕大千幕秀	島中節子	泰瑛春
(選外360名氏名略)	会苑里街盤月仙春田雲耕	島中節子	泰瑛春
吉茂木前松藤藤深平林南中土居土積竹浪	中野雲	島中節子	泰瑛春
田植本川井澤野	雲	島中節子	泰瑛春
潤清華尚千龍佳和房洋美	雲	島中節子	泰瑛春
裕水美泉子春仙月江子子	舟	島中節子	泰瑛春

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)

前衛書部(特選)
有希子 昌子 洋子 伸子 伸子 伸子

洋子 伸子 伸子 伸子 伸子 伸子

前衛書部(特選)
典子 上子 下子現代詩文書部(特選)
麻生洋子 伸子 伸子 伸子 伸子 伸子

洋子 伸子 伸子 伸子 伸子 伸子

前衛書部(特選)
洋子 伸子 伸子 伸子 伸子 伸子現代詩文書部(特選)
佐伯洋子 伸子 伸子 伸子 伸子 伸子

選評 三森慧香

あえて主張した展開良し
巧妙に曲直線を絡ませた
ファーブルの夏を感じる
力強い渴筆線が躍動する
包むに似た筆致心が動く
緊張感ある線余白冴える
落款と均衡の飛沫が良い
淡墨の滲みに趣きあり
上下呼応し快い造形良し

心祥花絢佑朋和順光
華香舟香江耀邦流象
華香舟香江耀邦流象

四俊和順光
夏吾香江耀邦流象

五泰和順光
夏吾香江耀邦流象

六藤永子
流象

七青京麗
八舟仙

九舟仙
十舟仙

十一舟仙
十二舟仙

十三舟仙
十四舟仙

選評 飯沼惠鳳

藤永子
流象

永舟
仙

透舟
仙

透舟
仙

素朴
十四舟仙

細線勁く余白に響き渡る
透明感ある線で抒情的

心の豊かさ味わい深い
多彩な線質で気迫が漲る

細線勁く重厚な線の饗宴
多彩な線質の変化見事

強靭な線質律動感溢れる
俯仰法の線質の変化見事

最初と最後の渴筆線庄巻
線勁く余白に響く構成佳

自然な流れで落款も抜群
自然な流れで落款も抜群

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 小竹石雲 千葉蒼玄 小島孝予 三浦鄭街

小品の部

〔現代詩文書〕 (翠苑) 若見苑柚 「三好達治の詩」



若見苑柚書

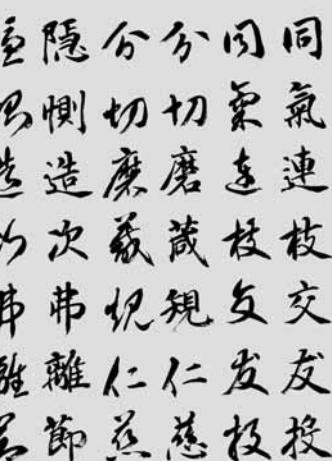
35×135cm

◆横への展開が郷愁を
誘いながらも、達治の
世界を力強く、そして
坦々と表現している。
行間の間合いが詩心を
染しませてくれる。墨
量不足が惜しまれる。

(石雲評)

◆半折^{1/2}を縦に使った、小
品の部の最小サイズ。紙面
の余白の取り方、配字が絶
妙で、安定感溢れる作品と
なった。作者の熱い研究心
を感じさせる。

(鄭街評)



臨書 (八街) 相樂天翔
「智永真草千字文」

45×35cm

〔臨書〕 (四谷) 佐藤詠子
「元永本古今集」

部分拡大



相樂天翔臨

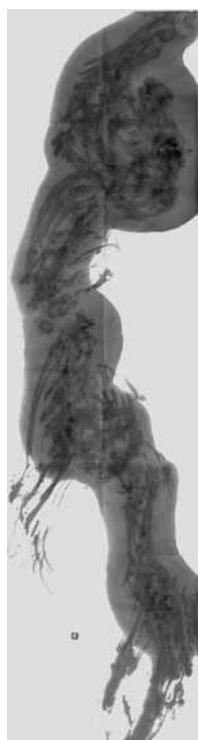
◆元永本古今集の書風であ
る「スッキリとした繊細な
線の中にも太細の変化によ
る線の厚み」を見事に学び
表現された作品。日頃の積
み重ねを感じます。(季子評)

佐藤詠子臨

35×75cm

◆淡墨のにじみの美しい線質で上部から下部へと一貫した流れを保ち、品格と抒情を兼ね備えた格調高い作品となっている。印の位置も可。

(蒼玄評)



相馬朱郷書

136×35cm



〔特選候補者〕
92点
総出品点数

創作の部	漢字	かな	前衛	漢字	かな	前衛	漢字	かな	前衛
44点	48点	10点	1点	43点	5点	1点	1点	6点	1点
44点	48点	10点	1点	43点	5点	1点	1点	6点	1点
44点	48点	10点	1点	43点	5点	1点	1点	6点	1点
44点	48点	10点	1点	43点	5点	1点	1点	6点	1点

小品の部

華祥大堂光雲春街心
加笨岩大佐宮土三石
藤測向日藤原屋浦森
雅陸俊幽光香惠小博
芳月雄香燭扇仙樹子

八一漢字書
〔漢字書〕
〔臨風〕
〔前衛〕
〔原刻〕
〔蒼筆〕
〔庄〕
〔坂井〕
〔木〕
〔司〕
〔奥〕
〔茂〕
〔梅〕
〔塚〕
〔千〕
〔詩〕
〔齊〕
〔藤〕
〔重〕
〔村〕
〔及〕
〔川〕
〔清〕
〔水〕
〔由〕
〔紀〕
〔豊〕
〔子〕
〔流〕

〔秀〕
〔蒼〕
〔枝〕
〔松〕
〔穹〕
〔伊〕
〔惠〕
〔か〕
〔A〕
〔四〕
〔枝〕
〔松〕
〔穹〕
〔伊〕
〔惠〕
〔か〕
〔I〕
〔四〕
〔枝〕
〔松〕
〔穹〕
〔伊〕
〔惠〕
〔か〕
〔及〕
〔川〕
〔清〕
〔水〕
〔由〕
〔紀〕
〔豊〕
〔子〕
〔流〕

〔宗〕
〔植〕
〔四〕
〔玄〕
〔現〕
〔呂〕
〔伊〕
〔惠〕
〔か〕
〔A〕
〔四〕
〔枝〕
〔松〕
〔穹〕
〔伊〕
〔惠〕
〔か〕
〔及〕
〔川〕
〔清〕
〔水〕
〔由〕
〔紀〕
〔豊〕
〔子〕
〔流〕

〔創〕
〔作〕
〔の〕
〔部〕

大作の部

臨書
(千葉)

佐藤桂香

現代詩文書 (菁湖)

北嶋菁湖
「富安風生の句」



北嶠菁湖書

佐藤桂香臨

103×135cm

部分擴大

◆半折3枚を横にして3段構成の大臨書作品。圧倒的存在感で特に目に留まつた。作者の変わらぬ根気と敬意を表します。（鄭街評）

弁轉疑里右通廣內左達
朱鵠輕呈右直度內互達
承明既集墳典上飛羣英
手酌池泉鑿典上窮勝美

◆夏空のもと、
青い布袋草の
花の輝きが淡
墨の滲みと周
囲の静寂感と
相俟ってロマ
ンを感じさせ
てくれる楽し
い作。

石雲評

今集を料紙で臨書され
ねばり強く取り組む姿勢が素晴ら
しい。細線や回転など筆先の動きがよくでき
ています。

臨書 (菊月) 新井惠子 「元永本古今集」

新井惠子臨

53×176cm

い、大胆
つ。やや
る箇所も
が、中間
立体感を
る。

漢字	— 6点
かな	— 2点
現代	— 9点
前衛	— 20点
臨書の部(8点)	
漢字	— 6点
かな	— 2点

大作の部(7)

大拙	秀恵	八街	游水	荒川	空華
皇中	阿部	新村	「漢字」	「臨書の部」	「現代詩」
成山	雅悠	翠芳	東総	薄田	春綠
佐々木豊苑	千葉	月華	玉州	遠藤	和香
紫泉	光泉	三塚	青蓮	工藤	甘雨
市川	朱華	倫果	角張	和香	石崎
翠苑	朱華	道塚	芳蘭	青蓮	阿部
八戸	翠苑	紫音	邑里	大町	大町
「前衛」	佐々木豊苑	佐々木豊苑	菜圓	青蓮	青蓮
中塩	月華	「前衛」	「漢字」	「臨書の部」	「現代詩」

27

漢字研究部
(真草千字文)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



佐々木 蓝水

漢字研究部 特選 佐々木 蓝水
彈力を利かした重厚な線質、巧みな技法で見事です。しっかりと安定した雰囲気を醸し出し、深い精神性が見られ、完成度の高い作品に仕上がっています。より一層心技ともに磨かれますことを期待いたします。

◎漢字研究部総評

今回の課題において1行目の楷書の「孔」2行目の草書の「兄」に多数の誤字が見つけ

られ誠に残念に思いました。臨書するにあたっては内容を捉えると同時に字典を引いて正しい字形を把握することが大事です。目に映ったままに筆を運ぶと、実線・虚線の区別がつかず誤字になりやすいのです。誤字を書かないことをモットーにして一字一字を正確に捉えて、慎重にかつ丁寧に学書する姿勢を養ってください。



礼 莘 殉 喜 滋 清
美 子 湖 子 子 筝 翩

まつ 江 凜 恵 祥 稔 江

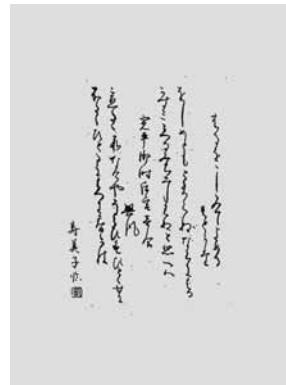
青 和 敦 千 邑 弘
加 凤 江 子 秋 里 美

春 幹 紅 茉 友 蒼
景 子 雨 悠 香 里 風

か な 研 究 部
(元永本古今集)

選評 福田令子

今月のホープ作品



田 烟 寿美子

◎かな研究部総評

今回は、元永本古今集の中でも、太い厚みのある線で書かれている部分でしたが、その特徴を良く把握し、穂先をきかせて、線が重くならないよう見事に臨書できました。

かな研究部成績表

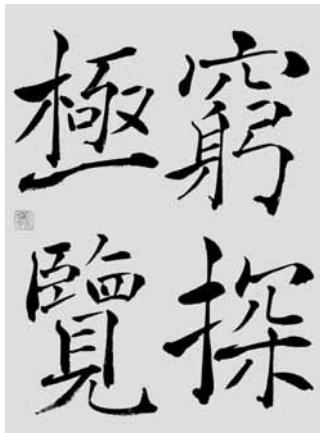
玉蓮華祥青秀明華八玉華墨白梓上も白一澄椿華佑一は白も姫萼草纏麗降天露白福竹掃玄有世黎澄幕水玉麗花澄春
外川紅仙紫蓮韻香仙街川梓宣露江東もく露閃春翠祥朋弦せ露なく路湖草纏澤雲薹詠章澤嶺山扇雪宵秋田明春張茎川澤祥
147 遊遊山山山矢柳村園三真松松木本古藤深平櫛原早瀬長野西西苗長永長中中富高富德寺津千武瀧高高高関須鈴木杉行新
名邊佐本田崎縣部源澤庭村永多郡谷坂鳩谷口川岡代島井并高野島里田澤前永承葉山口見橋樑高岡藤田美行内
氏名略傳佐由久久久
媚紅美香芳智音ケ陽珠和美子鑑鑑清子玉祐聖明久幸子美蘿衣佳優久柳星子星子星子星子星子星子星子星子星子
令香播華留雅楓京惠子苑華繁音子鉢子美子鉢子美子鉢子美子鉢子美子鉢子美子鉢子美子鉢子美子鉢子美子
祥風雨露幸雲好友幸雲好友幸雲好友幸雲好友幸雲好友幸雲好友幸雲好友幸雲好友幸雲好友幸雲好友幸雲好友幸雲好友

審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字28点・かな9点)

選評 種谷萬城・下谷洋子
漢字秀逸作



竹浪 叙舟



佐藤 一義

〈次点・
50音順〉



天野白扇



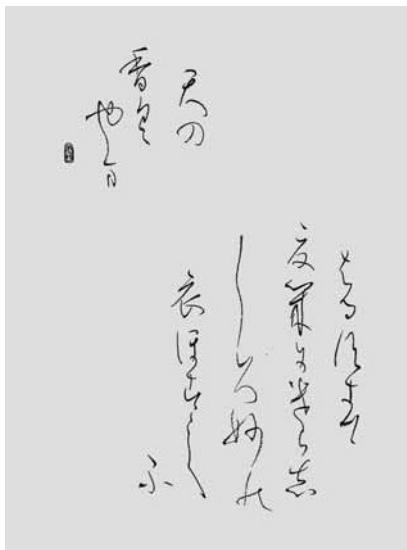
西川 藤象



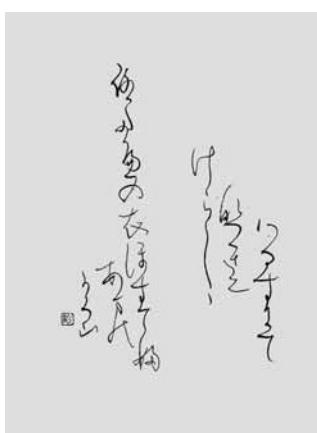
佐藤 光耀

超長鋒による線か。極細の線に表情と存在感がある。細やかな神経が生む見事な作。造形にも創意が見られ、いつまでも見惚れてしまう魅力的な作品です。
(萬城評)

かな秀逸作



神谷雲卿



米倉 聲香



清水 蘭舟

上下に分けた構成だが、余白が利き、行の長短や文字の大小も自然で清潔感にあふれる。この上に墨量の変化が加われば、より作品に深味が増したと思う。
(洋子評)

執行状況の報告
大阪万博での席上揮毫、全日本書道連盟に関する報告した。
以上、通常理事会の報告といた
します。

令和7年6月21日(土)に通常理事会が東神田の書道芸術院事務所にて開催されましたので、その概要を報告いたします。

議案第1号 参事の選任について
新たに大石利一、太田幸江、小野由紀、木村光子、小林浩、崎井博子、佐藤利満、佐藤寿子、三森悦子、山崎富美子の10名を加え、計16名とすること
で審議の結果、承認された。

審議事項

① 第78回書道芸術院展関係人事について

5月の理事会からこれまでの復帰者、退会者、ご逝去者について報告があり、承認された。

② 書道芸術院展一般公募について
一般公募の出品者増加や費用負担軽減を期待し、軸装を加えることについて協議した結果、無鑑査と一般公募において額装と軸装を選択できるように変更することを承認した。

報告事項

① 第76回毎日書道展出品状況について
書道芸術院の出品状況は、1,506点で昨年度より3点減少した旨を報告した。

② 第59回単位認定講習会について
講義科目、講習内容、時間割について報告した。

③ 代表理事、業務執行理事の職務の

古典鑑賞(8ページ)の参考資料

拓本に見えにくいところがあるため骨書きを示します。参考にして下さい。

惟

歲

歲
または

攝

提

震

紀

上

旬

紀

上

旬

第65回 書径舍展

今の書美
一光る墨魂—



- 会期 令和7年8月1日(金)～3日(日)
午前10時～午後5時(最終日は午後3時まで)
- 会場 富山県高岡文化ホール
(多目的小ホール・2、3階展示ホール・3階ギャラリー)

第74回 玄遠社書展

●会期 令和7年9月17日(水)
～21日(日)
午前10時～午後5時

●会場 大阪市立美術館
天王寺ギャラリー第1室・第2室
〒543-0063
大阪府大阪市天王寺区茶臼山町1-82
TEL 06-6771-4874

●主催 玄遠社 (会長) 小林琴水
●後援 (公財)書道芸術院
毎日新聞社
(一財)毎日書道会

第64回 白扇書道会展

●会期 令和7年9月17日(水)～21日(日)
午前9時～午後4時半

●会場 千葉県立美術館
第4,5,6,8室
〒260-0024
千葉市中央区中央港1-10-1
TEL 043-242-8311

●主催 白扇書道会 (理長) 種谷萬城

●後援 千葉県教育委員会
千葉市教育委員会
毎日新聞社 千葉日報社
全日本書道連盟
(公財)書道芸術院

第60回記念 竹扇会書展

テーマ 「還」

会場：大阪産業創造館(3階マーケットプラザ)

会期：令和7年9月12日(金)～14日(日)

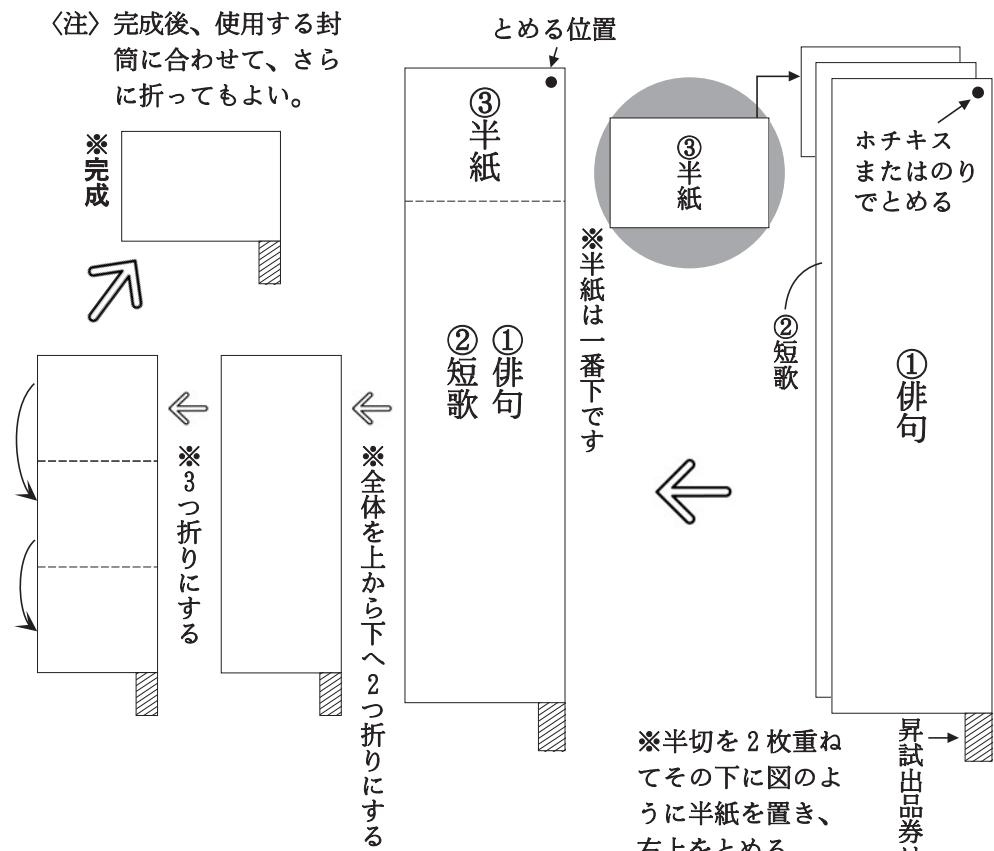
※初日は午後1時から 午前10時～午後4時30分

午後4時までにご入場ください

後援：(公財)書道芸術院・毎日新聞社・(一財)毎日書道会



◎特別昇段級試験・かな条幅第三種のまとめ方



※お願い

書塾等で複数の作品を提出する場合は、
ひとりずつ完成させた上で、それらを重ねて下さい。

書道芸術秋季特別昇段級試験 受験される方

1 出願に必要な書類一式は9月1日以降に順次発送となります。

2 受験する部門の作品制作について
各部門の臨書課題は、7月号(7月号)47~50ページに指定されている部分、字数を臨書する。

指定箇所以外の臨書は課題違反となります。

2) 落款は、創作作品は「〇〇書」、臨書作品は「〇〇臨」と書いてください。
ただし、かな部とかな条幅部の創作・臨書はいずれも印のみ可です。

3 出品について
1) 出品作品にはすべて赤で作品番号を記入してください。

2) 出品時には、必ず作品と内訳表・名簿の3点を一緒に送付してください。

3) 受験料は、必ず期日までに振込または、現金書留にて書道芸術院へ送ってください。

4) バーコード出品票は一種受験の場合は作品の右下に、「二種・三種受験の場合は、一番上の

作品にのみ貼付してください。
昇段級試験用出品券を必ず貼付してください。

5) 作品・書類発送時には、封筒に余裕を持って入れてください。開封時、作品や書類が破損する可能性があります。

例..三種の場合

※作品には一番上1枚のみ

バーコード券を貼る。
※受験する種別に赤で〇をつける。

▲注意
昇段級試験用出品券のコピー
使用は不可。
また、私製出品券も使用不可。

▲貼付の際はヤマトのりを使用。
作品番号を記入する。



予告

2025・9月号(773)の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

(10月15日締切)

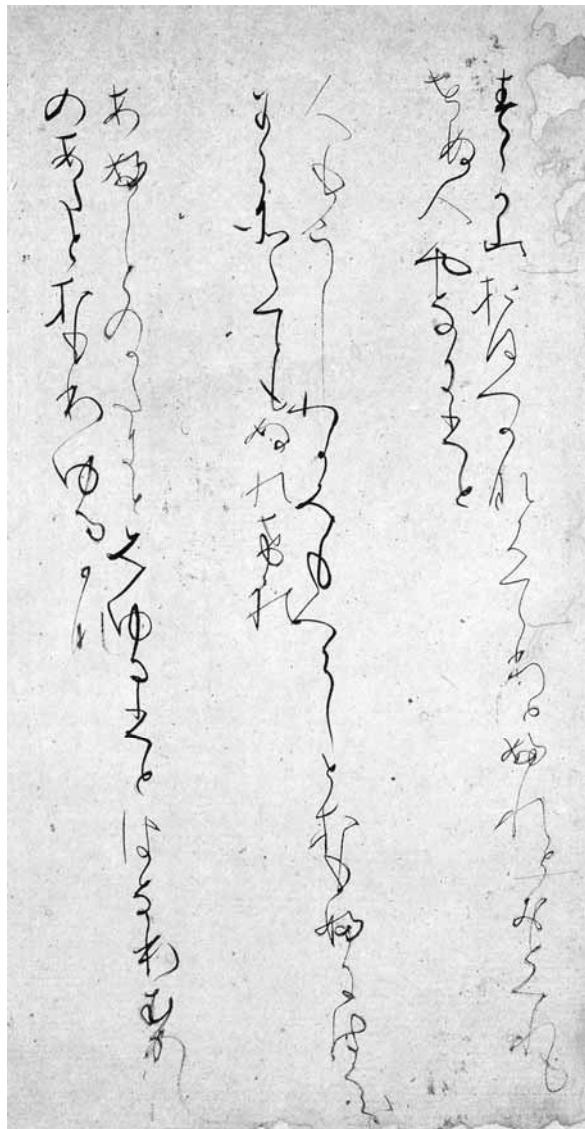
古筆鑑賞

250

古典鑑賞

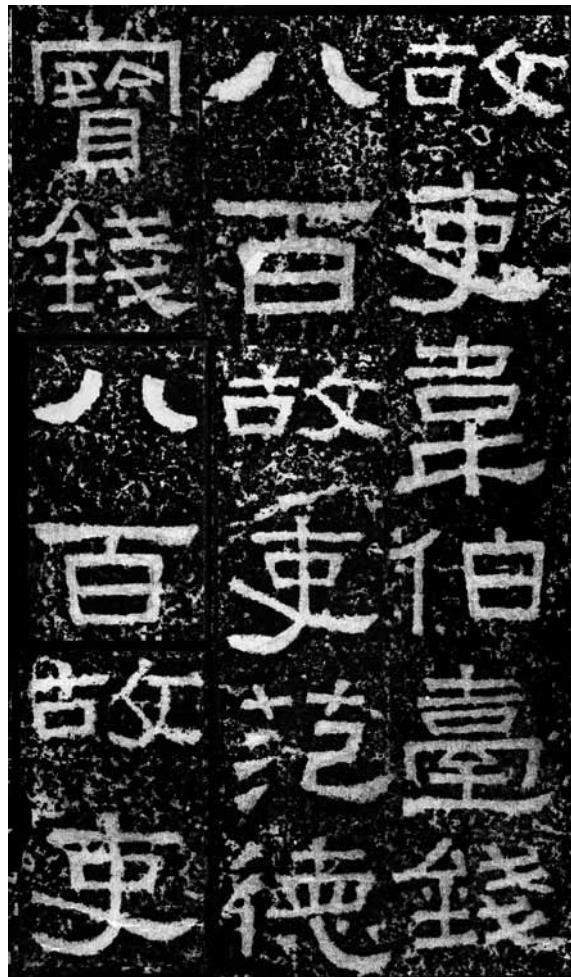
484

針切（伝 藤原行成筆）③



(掲載図版・70%に縮小)

もむと／こふが可に尔づく久す事へよ
ほ本かみあそに尔みび離れてゞよ
ゆしゆふ細はもとももほ*か可み
るるこでうつとど山
か可のひともららしと人せ世ふ縁お於
な那あとのぬれどつ
だとはか可れぬれどつ
となあた多け希お於
お於ほ本き支られに尔もやな奈と



(掲載図版・50%に縮小)

故吏韋伯臺錢／八百故吏范德／寶
錢八百故吏

競書出品規定

●規定部(自分の段・級で出品)

*規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

*特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

*半紙は縦使用に限る。

*落款(印のみも可)を入れる。

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

- 1、締切日必着厳守
- 2、月別出品券を貼付していなバーコード出品券は認めない
- 3、月別出品券のコピーは不可
- 4、(1)初めて出品のときは「10級」と書く
(2)課題違反・「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

●研究部(掲載課題の臨書)

※△印作品審査後着

- *段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3…
- 段位は漢数字 初、二、三…
- で書いてください。
- *級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。
- ・掲載部分以外の箇所は不可。
- ・かな研究部門は料紙使用可。
- ・料紙貼りつけも可。

部門	用紙	内 容
漢字研究	半紙	文字数自由
かな研究	半紙	歌1首以上を書く、全文も可

●自由部(段・級によらないもの)

101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7 東神田プラザビル3階

公益財団法人書道芸術院

電話(03)3862-1954 FAX(03)3862-1957

部門	用紙	内 容
実用書	前衛書	書体・内容
左記	半紙	書体・内容

ご連絡等は月曜日～金曜日 10時～16時の間にお願ひいたします。(土日・祝日は休み)

▲実用書部門・出品規定▽

○用紙 半紙横1/2(24×16.5cm)、B5コピー用紙(26×18.1cm)も可。

送 料

1か月の購読部数が

1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は送料免除

- 特別研究部
- 小筆、筆ペン、サインペンも可。
- 課題掲載語句を書く。
- 大作または小品のどちらかに1点出品する。
- 詳細は出品票の掲載ページを参照のこと。

☆審査会員の部について

- 「漢字部門初段以上」と「かな研究部門初段以上」に審査会員のみが出品できる部を設ける。
- バーコード出品券の段級欄に「審査会員」と記入する。
- 通常の競書との重複出品は不可。

定価 1部 七五〇円

令和七年七月二十五日印刷
令和七年八月一日発行

編集兼 下 谷 洋 子

発行人 印刷 アーティスト処理

印 刷 株式会社 リンクス

発行所 公益財団法人書道芸術院
101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7

電話(03)3862-1954 FAX(03)3862-1957 振替 00150-4-1350558
ホームページ http://www.lmgs.co.jp/shogei/